

すみだのまちをやさしく見守るすずかけの木のように  
ほっといやされる場所でありたい…

墨田区男女共同参画情報誌



# すずかけ

No.80  
2015

**特集** すみだ女性センター開館25周年

## すずかけまつり

「東京スカイツリー®」と共に 輝く未来へ!!

巻頭インタビュー

ロックシンガー

ダイヤモンド ☆ ユカイさん

2



特集

すみだ女性センター開館25周年

すずかけまつり ..... 4

80号記念 すずかけの歩み ..... 6

すみだに暮らす外国人に聞きました  
ロコミ! 比較文化論 ..... 8

イクメン・カジダン投稿写真 ..... 9

すずかけ インフォメーション ..... 10

こんにちは すみださん

黒澤 多美 さん ..... 12



ロックシンガー

# ダイヤモンド☆ユカイさん

仕事で家にいないこともあるけど、

できるだけ子どもたちとスキンシップをとって

俺なりに「親父の背中」を見せていきたいね。



profile **ダイヤモンド☆ユカイ**  
Diamond☆Yukai

1962年、東京生まれ。1986年、伝説のロックバンド「RED WARRIORS」のボーカルとしてデビューするも、人気絶頂の1989年に解散。その後ダイヤモンド☆ユカイとして音楽活動を中心にバラエティ番組や役者としても活躍。自身の不妊治療の末、2010年2月に長女が誕生。2011年11月に双子の男の子が誕生し3児の父となる。

お子さんが生まれるまでのエピソードを教えてください。

妻とはお互いバツイチだったんだけど、ファミリィを作りたいという思いを持って再婚したんだ。その時、妻の年齢が30代半ばで不安を感じていたから、近くのクリニックへ検査に行く事になって、付き添いのつもりで行ったら、待合室には不妊治療に挑戦している女性がたくさんいて、男性は俺一人。恥ずかしくなって隅っここのソファに隠れるように座っていたよ。その検査の結果、妻は年齢より卵巣年齢が若くて良かったと安心していたところ、突然先生から俺もって薦められ、なんとなく検査を受けたんだ。そうしたらなんと「精子ゼロです」と。精子ゼロ？と言う事は、子どもを作る能力がないと言う事かと思ひ、頭の中が真っ白になってしまったよ。俺はロックンローラーで男を売

りにして生きて来たから、プライドも崩れ落ち、最初はショックで立ち上がれなかった。しばらく落ち込んでいたけど、それじゃあしょうがないと思ひ、ネットでも無精子症を調べてみたんだ。そうしたら無精子症は100人に一人の確率でいて、顕微授精なら子どもを授かる可能性があるのとわかり、妻と話し合っただけで手術をした。

手術では、陰嚢を切っただけで精子を取り出すとの事だったので、そりゃあ恐怖だったよ。男性ならこの気持ちわかるよね。でも実際はそれからの女性の治療の方が何倍も大変だった。妻は日々の治療でホルモン剤の副作用や更年期障害のような症状が出たり、卵を取り出す痛みは想像を絶するものだった。俺の無精子症のせいでも、妻も大変な治療に挑戦しなければいけない。代わるものなら代わってあげたかったけれど、見守る事で精一杯だった。





顕微授精は1回目、2

だったよ。

回目と失敗だった。精神的にも肉体的にもそして金銭的にも負担が大きく、いつのまにか人生の目的が不妊治療そのものようになってしまつて、夫婦間もぎくしゃく…。離婚話をするようにもなつてしまつた。このままではいけないと思い、子どもを授からなくても2人で生きていく人生について話しあつたんだ。そして気持ちを切り替える為にも二人で旅行をしたりした。俺は完全に諦めていたんだ。そんな中しばらくして、妻が最後にもう一度だけ挑戦したいと。それならば男性不妊の第一人者の医師にお世話になろうと、九州まで旅行も兼ねて、リラックスして挑戦しに行ってきたんだ。そしたらなんと、子どもを授かる事ができた。本当に天にも昇るような気持ちだったね。子どもが生まれてからは生活の全てが新しい事だらけで、ロックンローラーの俺はまるで生まれ変わった気分

だつたよ。まずは沐浴に挑戦したんだ。今でこそ家では沐浴キングと呼ばれているけど、最初は緊張で手がつちやつちやつて、思わず手を離しちゃつたものだから、妻と妻のお母さんから沐浴禁止令が出てしまつた。でもロックンローラーはだめと言われると挑戦したくなるもので、ぬいぐるみを使って一から猛練習したよ(笑)。

**その後、双子のお子さんにも恵まれていますね。**

俺は一人っ子だけど妻は3人兄弟だから、長女のためにも兄弟姉妹を作つてあげたいと妻から相談を受けたんだ。治療が大変な妻が言うならと再び北九州へ。そうしたらなんと今度は双子！一気に入に3児の父になつちやつた(笑)。

出産だけでも大変なのに、まして双子。妻の負担を減らすため、長女の時と同じように夜のミルクは俺が担当することにしたんだ。ところが彼らは双子。同じ時間に泣かない事もあり、俺の睡眠がままならない。そこで編み出したのが「二投乳」。一人が泣いたら、もう一人も起こす。そんな事もあつてかミルクを飲み過ぎたのか(笑)、弟は俄然大きくなつたね。力があつて、今じゃ俺の荷物を持つてくれたりするんだ。

俺は、ファミリーは自然に授かるものだと思つていた。全て含めて、子どもたちの意志、ウィル(will)で授かるもの。でも、今の時代は親が親になろうとする強い意志、ウィルも関係するのかなと思う。

**いろいろな困難に立ち向かってきたユカイさん。読者の皆さんと、3人のお子さんへのメッセージをお願いします。**

一番言いたいことは、知ることの大切さ。知らな

いでも、悔いが残るものはないから。無精子症もそう。今は働く女性も多いから、35歳なんてあつという間だし、そこから40歳までに授かろうと思つても、夫が無精子症だったらいくら頑張つても難しい。知らない5年間が無駄になつちゃう。授かるかどうかは縁も運もあるけど、検査を受けて知識を持つていけば、対処できることがある。先日、妻が緑内障になつてしまつて皆さんに心配をおかけしたけど、ちゃんと健康診断をしていたからわかつたことで、知識は重要な事だと思つよ。

21世紀は男女関係なく、才能のある人が活躍する時代。子どもたちには知識と教養はもちろん、品性を兼ね揃えた人間になつてほしいな。困難に打ち勝つパワー、あきらめない心。人生、何が起

こるかかわからないけど、それさえあれば安心だからね。

# 特集

すみだ女性センター開館25周年

## すずかけまつり

「東京スカイツリー®」と共に輝く未来へ!!

すみだ女性センターでは、9月26日、開館25周年を迎えて「すずかけまつり」を盛大に開催しました。登録団体の展示や舞台発表は、多くの区民の方々の参加協力を得て、大変充実したものとなりました。すみだ女性センターが、これからも多くの方々の活躍の場となるよう願っています。

実行委員長 黒澤 多美

今回のテーマは、東京スカイツリーが多くの方に墨田区に来ていただくきっかけになっていることを踏まえ、共に輝く未来を力を合わせてつくっていかうとの思いで決定しました。

この「すずかけまつり」を通して、すみだ女性センターをより多くの方に知っていただき、男女共同参画社会の実現に少しでもつなげることができればと思います。



墨田区長 山本 亨

すみだ女性センター開館25周年記念すずかけまつりにご参加いただき、ありがとうございます。

区では、現在、第4次「男女共同参画推進プラン」に基づき具体的な施策を展開しています。

私は先日、23区の区長としては初めてとなる「イクボス宣言」を行いました。区役所内でも、子育てや介護と仕事の両立を支援し、男女共同参画を率先垂範していきたいと考えています。

5年後、30周年の時には「男女共同参画」は当然のこととなり、「男女共同参画推進」という施策が不要な社会になっていることを目指して取り組んでまいります。



講演会

キッチンから始まる

家族の絆

料理研究家 コウケンテツ氏

現在、週日は自宅で料理雑誌の撮影を、土・日は講演活動をしています。

最近では、和食が世界的にブームですが、日本の一日一人当たり野菜供給量は、世界で10位とアメリカより低いのです。アメリカは、1977年のマクガバン・レポートを受け、食生活を改善しました。長野県でも減塩の郷土食を復活させ平均寿命が全国1位になったように、食生活は5、10年後の健康に大きく影響します。

幼い頃、わが家では母の料理を近所の人も呼んで、賑やかに楽しく食べていました。テレビで見たインスタント食品に憧れましたが、いつも手作りの料理で、気がつけば病弱だった私は、すっかり健康になっていたのです。

この経験から、31歳で料

理研究家になりました。各国で家庭料理を教わる旅をして、食育にも関わって

きました。料理は五感を使うので、脳がフル回転します。楽しく食卓を囲むことでオキシトシン（別名信頼・愛情・抱擁のホルモンと言われています）が出るそうです。

5歳の息子と2歳の娘がいて、育児や家事も大変ですが、楽しんでいきます。

(柿下)

### すずかけまつり コンサート

#### 曲目

- ・愛のあいさつ (エルガー作曲)
- ・弦楽四重奏曲第2番二長調 第1楽章 (ポロディン作曲)
- ・君といつまでも
- ・青い山脈
- ・花は咲く
- ・エーデルワイス



#### 演奏

- ヴァイオリン 今井香奈
- ヴァイオリン 柏木かざね
- ヴィオラ 吉鶴洋一
- チェロ 太田陽子

生演奏で弦楽四重奏が聴けたのはとてもよかったと評判でした。なじみのある曲で、司会をした“ヴァイオラ奏者”吉鶴さんのお話も親しみやすく、楽しい時間がもてました。





## 舞台発表

## 日ごろの活動の楽しさを伝える発表となりました



### 朗読奉仕「くさぶえ」

目の不自由な方への音訳、老人ホームでの朗読会などを行っているボランティア団体。「すみだあれこれ」では、むかし話や相撲、墨田ゆかりの文人などを通じてふるさと墨田を語りついでいきたいという思いが伝わり、心に残る朗読でした。



### ことみかい 琴望会

琴伝流の大正琴の会。仲間と共に音楽を作り上げることを目指して活動をしています。ソプラノ・アルト・テナー・ベースのアンサンブルが豊かなハーモニーで、素敵な演奏でした。



### てーねん・どすこい倶楽部

主に退職した方や子育てを終えた方が集まり、経験や特技を活かし社会参加を促すNPO法人のボランティア団体。なつかしい歌を会場のお客様と一緒に声を合わせ、楽しく歌ったひとときでした。

### 新日本婦人の会 墨田支部

平和と男女平等を目指す、国連NGOに認定されている女性団体。墨田支部の皆さんによるコーラスは、一部に手話を交え、お客様も手話に参加し、会場一体となった舞台でした。



### 朗読サークルQ

今年8年目を迎える音訳ボランティアグループ。毎月第二木曜日に勉強会を開いています。藤沢周平「十三夜」の朗読にはしっとりとした叙情を感じました。



## 展示発表

登録団体が3階ロビー全体を使い展示発表を行いました。各団体が活動内容、歴史、手作り作品などをそれぞれの長を生かし、多数発表しました。

また、折り紙、大正琴、ポピンレースなどの体験コーナーがあり、小さな子どもが楽しそうに挑戦している姿がほほえましく見えました。



### あしたの会

活動報告・被災地支援のための手作り品の販売

### おひさまっこクラブ

子育てセミナー・折り紙作品展示、体験

### ポピンレースサークルローズマリー

英国の伝統ポピンレース作品展示  
実演・体験

### 新日本婦人の会墨田支部

絵手紙・ちぎり絵紹介  
「新婦人しんぶん」の掲示

### 墨田区更生保護女性会

活動紹介・しおりの配布

### 墨田カメラクラブふきのとう

写真展示

### すみだにほんごボランティア21

活動紹介

### はまなす

大正琴の展示・活動紹介

### 国際交流クッキング

活動紹介





# すずかけの歩み



1986年にすみだ女性センターの啓発冊子として創刊された「すずかけ」は今号で80号となりました。男女共同参画社会を目指して区民の編集委員によって作り続けられています。50号から79号まで11年間のテーマと内容を振り返ってみました。

\*創刊号から49号までは「すずかけNo.50」に記載

50号	2004.7 (平成16年)	50号記念特集「すずかけ」の歩み
♡	51号	2004.11 (平成16年) 今どきの結婚観
👛	52号	2005.3 (平成17年) すみだの女性 <sup>かたぎ</sup> 気質 職人さんの家庭から
53号	2005.7 (平成17年)	開館15年を迎えて…1990年って どんな年？
54号	2005.11 (平成17年)	すみだ女性センター開館15周年記念 すずかけまつり ― 輝け! すみだの未来 ―
👶	55号	2006.3 (平成18年) 「生きる力を育てる」 ― 五感を大切に ―
👤	56号	2006.7 (平成18年) 「健康と食」 ― 食事バランスを考えよう ―
👤	57号	2006.11 (平成18年) 家庭から回収されるごみは どこへ行くのでしょうか？
👤	58号	2007.3 (平成19年) 墨田区女性と男性の共同参画基本条例 施行後一年にあたって
👛	59号	2007.7 (平成19年) チャレンジする女性たち
👑	60号	2007.11 (平成19年) 高齢化社会と介護
👤	61号	2008.3 (平成20年) 「考え方」は世に連れて ～今、むかし～
👤	62号	2008.7 (平成20年) 住みよいまちをめざして
👶	63号	2008.11 (平成20年) 子育ての季節、今が旬
👑	64号	2009.3 (平成21年) 自分らしく年をかさねる

## 👤 女性・男性

1999年に「男女共同参画社会基本法」が施行され、墨田区でも2006年に「墨田区女性と男性の共同参画基本条例」が施行されました。

しかし、世界経済フォーラムが毎年発表している男女格差(ジェンダー・ギャップ)指数の2015年における日本の順位は、101位(145か国中)となっています。最初に発表された2006年には79位(115か国中)でした。根本からの大きな意識変化、それにとまなう社会変革には、まだまだ長い道のりを要するようです。

どちらか一方の性を軽視したり、見下したりする意識を改革することは、より良い男女共同参画社会の実現には不可欠です。こうした考え方に変化がもたらされれば、66号でとりあげたDVのような深刻な暴力問題の根絶に一歩、歩みを進めることができるかもしれません。

## 👛 仕事

職人の家庭を支え、また自らも職人である「おかみさん」の生活はハードです。2010年6月に、男女ともに仕事と家庭を両立できる働き方を目指して\*「育児・介護休業法」が施行されました。「ワーク・ライフ・バランス」や「イクメン」が当たり前になればいいですね。

また、59号でとりあげた製造業で働く女性たちの取り組みは、男の仕事・女の仕事という垣根を取り払う可能性を裏付けています。再就職の支援体制と企業の受け入れ態勢が、再就職への不安を解消する新たな一歩となれば、女性の力を必要とする社会にとっても有意義ではないでしょうか。

\*育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律

## 👤 生活・健康

2005年に厚生労働省・農林水産省から「食事バランスガイド」が発表されたので、56号ではバランスのとれた食事作りについて管理栄養士の方にお話を伺いました。

2008年には新タワーの名称が東京スカイツリー®に決まったことで、すみだの魅力をより広く発信したいという意識が高まりました。女性が積極的に活動しているまちの委員会や地域の防災活動を紹介しています。また、すみだの「モノづくり」を応援しているグループやカフェなども取材しました。







No.79から「すずかけ」と「にじ」を統合。リニューアルしました!

## 結婚

51号では、少子化の背景にある、結婚や家庭に関する考え方の変化に着目しました。結婚観などについてのさまざまな調査結果を通して、価値観には世代差があり、若い世代の方がより多様なあり方を受け入れる傾向がみられました。

墨田区にはたくさんの外国人が暮らしています。73号では、国際結婚をして墨田区で生活している方々にインタビューを行いました。日本語を話すことはもとより、読むことに苦労されたようです。ですが、家族や周囲の人たちに支えられ、笑顔を忘れず努力して乗り越えられていました。

## 出産・育児

核家族化が進み、地域のつながりも希薄になりつつある現在、孤立した中での子育てが心配されています。

「すずかけ」はこれまで、行政、地域、民間のさまざまな取り組みを紹介してきました。77号では、特に深刻な孤立、貧困が問題となっているシングルマザーに焦点をあて、現状や支援などを取り上げました。子育てで直面する多くの困難に対して、もっと助け合いの輪がひろがっていくことを願います。

55号では、2005年に「食育基本法」が施行されたのを受け行われた食生活講習会の講師の方々に、五感を大切に食育等についてお話をうかがいました。「『食』を見る目は、子育てや介護などのいのちと向き合うことに共通しています」という言葉が印象的でした。

## 高齢化・長寿

いまや4人に1人が65歳以上という社会になりました。そして、今後も増え続けると推計されています。60号では、介護に直面した時の相談窓口や施設、住宅、地域包括支援センターの紹介をしています。また、64号では、自分らしく元気に年を重ねる方々の生き方を伝えました。

今後、単身世帯の増加に伴い、地域の果たす役割はますます大きくなっていくことでしょう。長寿社会に向け、墨田区でいきいきと安心して暮らせるようにと願っています。

- |  |     |                    |   |
|--|-----|--------------------|---|
|  | 65号 | 2009.7<br>(平成21年)  | 共に生きる社会をめざして  |
|  | 66号 | 2009.11<br>(平成21年) | DV 他人ごとですか?   |
|  | 67号 | 2010.3<br>(平成22年)  | 地域の方で楽しい放課後   |
|  | 68号 | 2010.7<br>(平成22年)  | みんなで支える出産   |
|  | 69号 | 2010.11<br>(平成22年) | すみだ女性センター開館20周年記念事業「すずかけまつり」～東京スカイツリーと共に人もまちも輝く未来へ～ |
|  | 70号 | 2011.3<br>(平成23年)  | もっとゆとりある生活を!<br>～ワーク・ライフ・バランス～                      |
|  | 71号 | 2011.7<br>(平成23年)  | 長寿社会を安心して暮らす  |
|  | 72号 | 2011.12<br>(平成23年) | 男女の仕事<br>～広がる、その可能性～                                |
|  | 73号 | 2012.7<br>(平成24年)  | 国際結婚<br>～すみだで暮らす～                                   |
|  | 74号 | 2012.12<br>(平成24年) | 防災まちづくりに 女性の力を                                      |
|  | 75号 | 2013.7<br>(平成25年)  | 男性の地域デビュー<br>～はじめの一歩～                               |
|  | 76号 | 2013.12<br>(平成25年) | 人と人をつなぐ場所をつくりたい                                     |
|  | 77号 | 2014.7<br>(平成26年)  | ひとり親家庭<br>～助け合いの輪を広げよう～                             |
|  | 78号 | 2014.12<br>(平成26年) | 女性の再就職のために  |
|  | 79号 | 2015.7<br>(平成27年)  | すくすく育て!! 今どきの保育所                                    |



## ウガンダ共和国

はがみ たまき  
羽上 珠希さん  
Ms. Magoola Racheal  
Tamaki (Hagami)



ウガンダ共和国の首都カンパラで生まれ育った羽上さん。お母様が日本人、お父様がウガンダ出身、日本で働くために今年の6月に来日しました。日本語の勉強は日本に来てからだそうです。英会話教室の講師として働いています。



## モンゴル国

はくは たけし  
白馬 毅さん  
本名 ウヌルジャラガラ・アリオンバヤルさん



モンゴル国ウランバートル出身の白馬さん。1998年、15歳の時に、相撲部屋に入門するために来日しました。現在は、両国にあるモンゴル料理のお店「ウランバートル」のオーナーとして活躍されています。

## すみだに暮らす 外国人に聞きました

# 口コミ！

# 比較文化論

笑顔が素敵なウガンダ出身の羽上さんと、モンゴル出身で、力士として活躍した元小結の白馬さん。それぞれのお国事情から見てくる文化の違いなどを紹介していきたいと思います。

取材協力：ひらがなネット株式会社



Q 墨田区での暮らしはどんなですか？

羽上さん：最初は言葉がわからず、ウガンダに帰りたくありませんでしたが、最近は楽しんでます。日本のテクノロジーはすごいですね。例えばトイレ、ウォシュレットやオートマティックなフタとか(笑)。

白馬さん：力士になるため来日したのが15歳の時でした。力士をやっている強くなったのは、相撲が日本人に愛され、尊敬され、大事にされているということ。日本の文化や伝統、人を敬うことなど、多くを学びました。両国や錦糸町は下町の良さがあって過ごしやすく、安全。都心も近く便利です。娘も近所の小学校に通っています。多国籍な雰囲気もあって、外国人も多いですね。

Q 皆さんの国の学校や家族のことを教えてください。

羽上さん：ウガンダでは小学校7年、中学校4年、高校が2年です。男子校も女子校も、共学校もあります。日本と違うのは寄宿制の学校が多いこと

とで、私もそうでした。自宅から通えない人が多いからかな。高校までは男女の比率は同じですが、大学は女性が少ないです。私はマケレレ大学でソフトウェアの勉強をしました

が、90%が男性でした。父からは、勉強して一番を目指さない、そして自立した人間にならないと言われていました。

白馬さん：自分が子どもの頃、学校は10年制でしたが今は12年制です。男女共学が普通で、学級代表はだいたい女子でした。

羽上さん：ウガンダでは、女性性は22歳頃までに結婚することが多く、私の年で独身は少数派。でも、日本ではめずらしくないの



で良かった(笑)。恋愛結婚がほとんどで、結婚後、外に出る女性が少ないです。白馬さん：モンゴルでも恋愛結婚がほとんど。家庭では表向きは男性が強く、裏で女性

日本では女性が看護師で男性が医者というのが多いですよ。モンゴルは女性の医者が多いんです。学校の先生も女性のほうが多い。理由はわからないのですが。

羽上さん：マケレレ大学は、東アフリカでは一番の大学と言われているんですが、卒業後に就職できるのは半分ほど。私も働くために日本に来ました。今は英語の講師ですが、日本語を勉強していずれは通訳として働きたい。両親とは英語、

相手母とはルガンダ語、友人たちとはスワヒリ語で話していますので、他の言語に置き換えて会話することが楽しいと感じています。

白馬さん：ウランバートルは自分が十両に上がった時に、モンゴルの家庭料理を食べさせようと母が来日して開いたお店です。モンゴル出身の力士もよく食べに来てくれますよ。ゴリルタイ・シヨルという肉うどんはシンプルで優しいおふくろの味。力士時代、この料理に力づけられました。モンゴルは成長途中の国ですから、まずは自分が安定して、いずれはモンゴルのために力になりたいです。



イクメン

カジダン

# 投稿写真

イクジイ  
も大歓迎!



寝返りできたよ!  
藤野 裕之さん

双子の娘が寝返りできるようになりました。毎日ちよつとずつ成長する娘たちから、今後も目が離せません!



今日もごきげん!  
よしひこさん

娘の笑顔はパパとママの元気の源! レナちゃん、いつもパパとママを幸せにしてくれてありがと!



パパの抱っこ  
はっしーさん

やんちゃんな子ですぐどこかへ行ってしまいます。抱っこならいつまでもおとなしくしているので、助かっています。

応募規約

イクメン・カジダンの  
写真を募集しています!!



←区モバイルサイトへは QR コードを読み込んでアクセス  
※接続時にパケット通信料がかかる場合があります。

投稿先

suzukake@city.sumida.lg.jp

募集写真  
のテーマ

イクメン/カジダン/イクジイの写真(1年以内に撮影したもの)  
※応募者または、被写体が墨田区内に在住、在勤、在学の方  
※子育て、家事をしている男性(子どもがいない方でも可)

応募方法

作品の応募は電子投稿(Eメール)のみです。  
以下の内容を記載し、Eメールで応募してください。

- 1) 写真のタイトル
- 2) 応募者(撮影者)の名前(フルネーム、本名)
- 3) ペンネーム(掲載する際に使用)  
※記載のない場合は、本名を掲載します。
- 4) 写真についての50字以内のコメント
- 5) 被写体との関係(本人/友人/夫など)
- 6) 連絡先(住所、電話番号)

応募に  
ついて

- メールの件名を、必ず「写真投稿」としてください。
- 写真のデータは2MB以内のJPEG形式をお願いします。
- 被写体1人につき1枚の応募とします。
- 応募1回につき添付する画像は1枚とします。
- 郵送による投稿は受け付けておりません。

注意事項

- 応募作品は、著作権や肖像権、プライバシーを侵害するおそれのないものに限ります。写真に写っている方に、必ず承諾を得てください。肖像権その他の権利は、応募者の責任において処理いただいた上でご応募ください。
- 応募作品の著作権は応募者に帰属しますが、応募者は区に対し無制限の使用権を許諾するものとします。(区の他事業等にも使用させていただく場合がありますので、あらかじめご了承ください。)
- 応募が多数の場合は選定のうえ掲載させていただきます。
- 掲載枠の都合上、写真やタイトル、説明文等について、こちらで加筆・修正、トリミングをする場合があります。
- 本応募に起因して生じる損害に付き、区は一切責任を負わないものとします。

## 編集後記

「すずかけ」が節目を迎えた今年、日本は一億総活躍社会を目指すとのこと。男女共同参画はもちろん、老若男女が活躍する社会ということなのでしょう。しかしどんな社会であっても、生きていくうえで食事の大切さ、人とのつなが

りの大切さを忘れてはいけないと痛感しました。これからも女性センターが人々をつなげる場となり、すみだを見つめ、次世代へとつながる“輝く未来”へ向け一緒に歩んでいきたいと思えます。(五井)



ワーク・ライフ・バランスセミナーのようす

## Information すずかけ インフォメーション

### ワーク・ライフ・バランスセミナーを開催しました

平成27年10月7日、すみだリバーサイドホール会議室で、区内企業向けセミナー「知って得する！ワーク・ライフ・バランスのお話」を行いました。

#### ■ カリキュラム

- 1 東京都助成制度の説明  
東京都労働情報センター 亀戸事務所
- 2 セミナー  
東京都社会保険労務士会墨田支部 特定社会保険労務士  
袴塚和彦 氏
- 3 ゲストトーク  
東京都ワーク・ライフ・バランス認定企業（長時間労働削減取組部門）  
小菅株式会社 代表取締役会長 小菅崇行 氏
- 4 質疑応答（座談会形式）

#### ■ 内容

区内企業の経営者、人事担当者に「知って得する」内容をお伝えしたいと、東京都社会保険労務士会墨田支部、東京商工会議所墨田支部との共催で企画しました。セミナーでは、ワーク・ライフ・バランスに取り組むメリット、国や都の助成制度等を中心に説明し、ゲストトークでは、実際に長時間労働の削減等に取り組む、ワーク・ライフ・バランスで長年実績をあげている小菅株式会社代表取締役会長の小菅崇行氏にお話を伺いました。

その後座談会形式で行った質疑応答では「実際に長時間労働の削減等に取り組むにあたり、社員の理解をどうやって得たのか。」「業務見直しにより、取引先との関係はどのように変わったのか。」といった、実務に密着した内容のやりとりがされました。経営者の強いリーダーシップで始まり、社内の意思統一に向けた地道な啓発の積み重ねが効果に結びついていく過程を伺い、参加者の方も納得の表情でした。

#### 関連情報のご案内

※東京都の助成制度等

「東京都労働相談情報センター」

<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/soudan-c/center/business/index.html>

※東京都のワーク・ライフ・バランス推進事業等

<http://www.tokyo-wlb.jp/>



ワーク・ライフ・バランス座談会のようす

### 女性活躍推進法が成立しました

（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）  
平成27年9月4日施行

#### 目的

男女共同参画社会基本法の基本理念にのっとり、自らの意思によって働き又は働こうとするすべての女性の活躍を迅速かつ重点的に推進し、その結果として男女の人権が尊重され、豊かで活力ある社会を実現すること。

#### 基本原則

女性に対する採用、昇進等の機会の積極的な提供及びその活用と、性別による固定的役割分担等を反映した職場慣行が及ぼす影響への配慮が行われること。

職業生活と家庭生活との両立を図るために必要な環境の整備により、職業生活と家庭生活との円滑かつ継続的な両立を可能にすること。

女性の職業生活と家庭生活との両立に関し、本人の意思が尊重されるべきこと。



この法律により国や地方公共団体、民間事業主には、平成28年4月1日までに①女性の活躍状況の把握・課題分析、②事業主行動計画の策定・公表等、③女性の活躍に関する情報の公表などを行うことが義務付けられます。

（パートや契約社員も一部を除いて含まれます。また、労働者300人以下の民間事業主については努力義務となります。）

※詳しくは <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>（厚生労働省女性活躍推進法特集ページ）等をご覧ください。



## 墨田区男女共同参画推進委員を募集します

区では、男女共同参画社会の実現をめざし、「墨田区男女共同参画推進委員会」を設置しています。

この委員会は、区の男女共同参画施策に対し意見や提案を述べ、区民の皆さんへ施策の啓発を行う機関です。

“男女共同参画施策に興味がある”“男女が共に住みやすいまちについて考えたい”など墨田区における男女共同参画に関心をお持ちの方、ぜひご応募ください。

**募集人員** 2人

**応募資格** 区内在住の方

**任期**

平成28年4月1日から平成30年3月31日まで

**活動内容**

平日昼間に開催する審議会（年4回程度、各回2時間程度）に参加し、区の男女共同参画施策に関して検討を行い、意見を述べていただくほか、啓発事業への参加協力などです。

**託児**

委員会開催中の託児サービス（無料）を希望される場合は、ご相談ください。

**謝礼**

審議会の出席1回につき、7,500円（税込）をお支払いたします。

※委員は、特別職の非常勤職員に位置づけられます。

**選考方法** 応募書類の審査

**申込方法**

(1) 提出いただくもの

① 住所・氏名（ふりがな）・生年月日・年齢・性別・職業・電話番号・応募動機 ② 作文「男女共同参画社会について考えること」（800字程度）

※指定の応募用紙のほか、パソコン等で作成したものも可。応募用紙は区ホームページからダウンロードできます。

(2) 提出方法および締切日

人権同和・男女共同参画課あてに、持参、郵送またはEメールにより、平成28年1月20日（必着）までに提出してください。

**申込み・問い合わせ先**

〒130-8640 墨田区吾妻橋1-23-20（区役所8階）  
墨田区 総務部 人権同和・男女共同参画課  
男女共同参画担当  
電話 03-5608-6512  
Eメール JINKEN@city.sumida.lg.jp

## すみだ女性センター事業のご案内

詳細はその都度、区報や区ホームページ等でお知らせします。多くの区民の皆さんのご来館、ご参加をお待ちしております。

### ● 女性のための再就職支援セミナー

平成28年2月2日（火）  
午前9時30分～午後0時40分

### ● 男の生き方セミナー

平成28年2月5・12日（金）  
午前10時～正午

### ● 働く女性応援セミナー

平成28年2月13・20・27日（土）  
午後1時～午後3時

## 25周年記念シンポジウム

**講演会講師** スポーツジャーナリスト・元マラソン選手  
**増田 明美** さん

平成28年3月3日（木）午後7時～午後8時30分

※申し込みは、1月21日（木）午前9時から受け付けます。（先着100名）  
すみだ女性センター 電話 03-5608-1771へ

墨田区男女共同参画推進拠点施設

## すみだ女性センター～すずかけ～

### 【開館時間】

月曜日～土曜日 午前9時～午後9時  
日曜日・祝日 午前9時～午後5時  
〒131-0045 東京都墨田区押上二丁目12番7号  
セトル中之郷内受付2階

電話：03-5608-1771 Fax：03-5608-1770

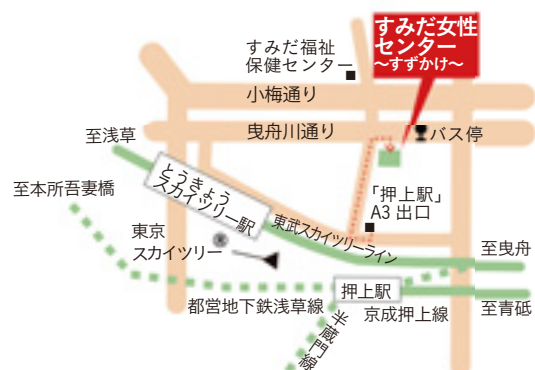
### 【電車の場合】

京成線（都営浅草線）・半蔵門線  
「押上駅」下車A3出口徒歩5分  
東武スカイツリーライン  
「とうきょうスカイツリー駅」下車  
徒歩10分



### 【バスの場合】

都バス（錦40）南千住東口駅～  
錦糸町駅  
「向島三丁目」バス停前徒歩1分  
墨田区内循環バス（北西部ルート）  
「女性センター」バス停前下車  
徒歩1分



こんにちは  
すみださん

すずかけまつり実行委員長

黒澤 多美さん

## 人との触れ合いを 大切に



黒澤さんは、すずかけまつり20周年、25周年と実行委員長を務めました。会場で出場者一人ひとりにねぎらいの言葉がけをされている姿に感銘を受けました。

黒澤さんは岩手県山田町の出身。高校卒業後、目黒のドレスメーカー女学院に入学。卒業後、学院に残り教師を続けました。洋裁学校の全盛時代、教えることが好きで80人の学級を受け持ちました。昭和39年の東京オリンピックの時は、制服のコンペに参加する作業にかかわり「あの10年は花」と回想されました。

30歳直前にお見合いで結婚。夫の母と3人の生活を現在もお住まいの立花でスタートしました。2人の息子さんにも恵まれ、育児・PTA活動にも力を入れました。夫の母の介護は97歳で亡くなるまで続けました。互いに率直に言い合い、晩年、夫の母とは「死んでもあなたのことを守る」と言

われる仲になりました。

その後、女性センターのすずかけ女性大学(当時)に参加、自主グループ活動も始めました。平成13年から女性のひろば委員、平成19年から委員長となり、女性センター運営委員もしています。

60歳になって、地元立花老人会九十九会(つくもかい)に入会しました。黒澤さんの細やかな活動が評価され、やがて当時としては、めづらしく女性で会長に就任しました。墨田区老人クラブ連合会(墨老連)副会長、東京都老人クラブ連合会女性部常任委員も兼務しています。夫も九十九会でいきいきと活動しています。そのほかにも、社会福祉法人などで幅広く活躍しています。

平成23年3月東日本大震災の津波で故郷山田町の実家も流失。親戚、同級生の何人もが亡くなりました。個人的に何回も山田町を

訪ね、援助の仕方難しさ、女性の視点の大切さを痛感し、女性センター運営委員の被災地に物資を送る自主的な活動にもつながりました。

現在長男一家と黒澤さん夫婦の三世代で同居、家事や食事作りも分担しています。

墨老連会報に黒澤さんは「私の70有余年の年輪を指でなぞりますと、先の大戦の戦争体験、勉強のための上京、結婚、姑づとめ等人格形成に影響。その時々で嫌だった事には人にはすまいという心構えで生きてきました。『加齢』は年毎に進みますが『老化』は努力すれば速度を緩める事が出来ます。これからも皆様方との触れ合いを大切にしていきたいと思います」と述べています。

人生のさまざまな局面で学び、活動の分野を拡げ、円熟味を増してこられたと感じました。(吉川)